

# くっちゃんめ通信 for Pets

free<第12号>2024年9月5日発行 ご契約全お客様・松戸市内法人・個人宅にて5,000部配布

<発行>ロマン産業(株)

〒270-2213

松戸市五香 5-44-1

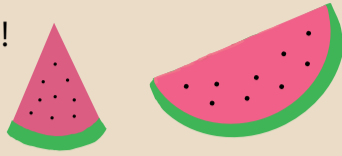
TEL:047-387-5433

FAX:047-387-9944

URL:<http://roman-sangyo.co.jp>



今月号もお写真のご協力ありがとうございました!



ナッツちゃん & コロンちゃん



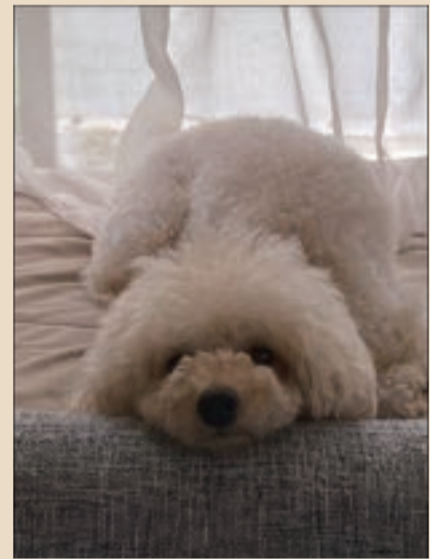
楓汰ちゃん



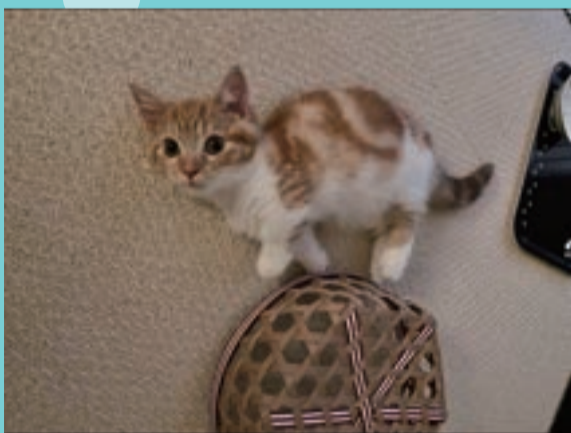
自慢の  
ウチの子★



あいちゃん & もくちゃん



まるんちゃん



ももこちゃん



銀子ちゃん



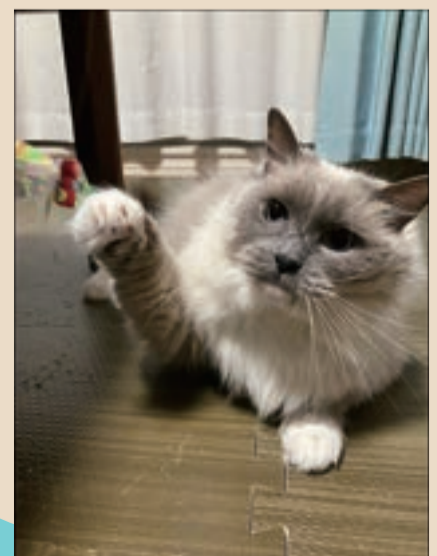
ちやいちゃん



ケイちゃん



ルウちゃん



さなちゃん



# 馬のおはなし



こんにちは、営業部の小山です。パリオリンピックで総合馬術が銅メダルに輝きましたね。メダルは92年ぶりというから快挙です。選手達が自分たちのことを「初老ジャパン」と言っていました。乗馬は年をとってもできるスポーツで、私自身も40代後半から始めました。さらに男女差や体重差などもないのが特徴です。そして唯一、動物と一緒に汗を流すスポーツでもあります。パリオリンピックでは、馬たちにもメダルが渡されていたのが評判になりました。騎乗している人が、馬の状態をよく把握し、歩幅を合わせて障害物を飛び越えなければ綺麗に飛べません。人馬が一体となって行う競技ゆえ、馬にもメダルが渡されるのです。

か？乗馬はバランスを取るのが主で、足腰で馬に合図を送っているのですが、手綱はそんなに重要ではないのです。体を馬の上で支えていられれば障がいのある人や子どもでも乗ることができ、よって年齢を重ねても続けていけるのです。馬は背中がとても敏感なので、騎乗者がどんな人か（レベルという力量でさえも）感じ取ることができません。お互いに信頼し合えないと成立しないスポーツでもあるのです。

障がいのある人という点では、四肢が不自由ということだけでなく、知的（精神）に障がいがある人にとっても、スポーツというより治療に近いことが可能といわれています。こちらはまだ研究段階のようですが、アニマルセラピーの一種の「ホースセラピー」として海外では医療現場で受け入れられており、一般的なりハビリテーションを行うより効果が早く表れるそうです。

なぜそうなのかわからなかったくないのですが、症例として多く報告されていて、それを検証している段階だそうです。今回はこのあたりのお話をお伝えしていこうと思っています。

テレビ等でもなかなか放映されませんが、騎乗している人と馬を支えるチームがあります。例えばオリンピックピックでいうと、馬を現地に運ぶ人、現地で馬を世話する人（獣医さんも含みます）、競技前に馬を調教する人などがいて、彼らが馬の状態を騎乗者に伝えてくれています。パリオリンピックの場合はさらに介助者もいるので、多くの人が関わることとなります。パリオリンピックで身体が不自由な人でも馬に乗れるって驚きません



## 9月1日は「防災の日」

防災の日とは、「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」ために制定された防災啓発デーです。

## 9月7日は「ペットの防災の日」

9月7日が「ペットの防災の日」というのは皆様ご存知でしょうか？近年全国各地で災害が発生しており、いつ身近でそれらが発生するかわりません。

また、コロナ禍以降、ペットを飼育する方は増えているそうです。それと反比例してコロナウイルスの感染防止対策として、避難所の収容スペースは以前より小さくなっています。

家族であるペット達の命を守るためにも食糧や備品の準備、ケージに慣れておくなど、日頃から備えておくことが重要です。

みなさまからのかわいいペット写真を大募集しています！  
ご自慢の“ウチの子”の写真とお名前を  
下記メールアドレスまでお送りくださいね！  
(お客様のお名前も記載お願いいたします)  
ワンちゃんネコちゃん以外もお待ちしております。



頂いたお写真で2026年のカレンダー作成を企画しております！

※次号に掲載する分より2026年のカレンダーに使用する可能性があります。  
予めご了承ください。

[roman.animals@gmail.com](mailto:roman.animals@gmail.com)



50th ANNIVERSARY アクアクララ オレンジ  
R ロマン産業株式会社

<http://roman-sangyo.co.jp>



## 飼い主がやるべきことは？

- ワクチン接種や寄生虫の駆除など、健康面のチェックを。
- 最低限のしつけや、ケージに慣らす訓練、マイクロチップによる所有明示を。
- 住宅の災害対策や、フード、トイレシートなどのペットの避難セットの準備を。
- ペットの受け入れ対応を含め、事前に避難場所の確認を。



災害時にはペットを落ち着かせ、迷子にさせないように注意して、ペットとともに同行避難をしましょう。

※「同行避難」…避難所までの避難行動(行為)であり、避難所でペットと人が同じスペースで過ごすことなどの「同伴避難」を指すものではありません。

